



奥州金ヶ崎行政事務組合
水沢消防署
小野 進 署長

消防署と消防団は、互いに協力し合い消火活動や火災予防活動に当たっています。消防団の強みは、何と言っても地域に密着している点です。地元の地理に詳しく、住民をよく知っているのです。火災時の水利確保や火防点検などで非常に助けられています。強い使命感を持ち、幅広い活動をみせる消防団は、地域に欠かせない重要な存在です。



前沢白鳥5区
鈴木正侃 区長

北上川沿いにあるわたしたちの地区は、長年洪水被害に悩まされています。平成14年には13ヵ所以上も水位が上昇し、農作物や住宅に大きな被害が出ました。そんなとき消防団は、24時間体制で警戒や誘導などに当たってくれます。自主防災組織や防災訓練でも重要な役割を果たしています。地域を守る消防団の活動を本当に心強く思っています。



災害時の活動

- 消火活動
- 救助・救出活動
- 警戒巡視
- 避難誘導 など

平常時の活動

- 消火訓練
- 防火啓発活動
- 特別警戒
- 祭事参加 など

VOLUNTEER
FIRE CORPS

受け継がれる伝統と心意気 住民を守る消防団活動

住

民で組織される消防団は、いつ誕生したのでしようか。消防団の歴史は古く、江戸時代、8代將軍吉宗がつくった町火消が、現在の消防団の前身だといわれています。市内でも、留守氏の命を受けて江戸に派遣された佐々木佐五平が、町火消を習い、民間の消防を創設しました。

その後、町火消は、近代化や戦争などの影響で、消防組、警防団などへと姿を変えていきます。現在の形になったのは、第2次世界大戦の終了後。消防の任務や責任などを定めた消防組組織法が、昭和22年に公布されてからです。この法律によって、市町村に消防署や消防団などの設置が義務付けられました。

市内の消防団もこの時期に誕生しています。これまで、さまざまな災害から地域住民の生活を守り続け、内閣総理大臣表彰や消防庁長官表彰を受章するなど輝かしい功績を残してきました。

全

国の市町村には消防署と消防団が設置され、連携して消防活動に当たっていますが、両者の性格は異なっています。

消防署は、消防業務に携わる専門職員がいる常設の消防機関です。消防活動の第1線の活動部隊として、消火や救急・救助活動に出動するほか、火災予防活動や救命講習会なども行っています。

一方、消防団は、普段、農業や自営業、会社員などをしていく住民が、災害発生時などに消防活動を行う非常備の消防機関です。ボランティア的な性格が強い組織ですが、れっきとした

市町村の公的機関で、消防団員は非常勤の地方公務員になります。消防団員には、報酬や出動した際の出動手当てなどが支給されます。平成21年4月1日現在、全国に2336団の消防団があり、88万5394人もの消防団員が活躍しています。

消防団の活動は多方面にわたりますが、最も出動が多いのは消火活動です。出動要請があれば現場に急行し、消防署と協力して消火活動に当たります。ほかにも、災害発生時には、救助・救出活動や警戒巡視、避難誘導などを行うこともあります。活動は災害発生時だけではなく、平時には、有事に備えて消火訓練をしたり、火災予防の啓発活動をしたりしています。このように消防団員たちは、自分の仕事を抱えながらも、「自分の地域は自分たちで守る」という熱い信念を持って活動しているのです。

わ

わたしたちが住む日本は、地形や気象条件から、地震や台風、豪雨などによる大規模な災害が発生しやすい環境にあります。こうした大規模災害では、消防署などの防災機関だけで、広範囲に迅速な救助・救援活動を行うのは困難です。そこで注目されるのが消防団の存在です。

阪神・淡路大震災では、多くの消防団員が、自らも被災しているにもかかわらず、消火活動や救助活動などに従事し、消防団活動の重要性が見直されるきっかけになりました。本市でも、平成19年の大雨被害の際に、河川の警戒巡視や土のう積み作業などを展開。20年に起こった岩手・宮城内陸地震では、発生直後から地域を巡回して安全確認を行ったほか、危険箇所の警戒などに当たるなど、地域に密着した消防団ならではの活躍を見せました。

